

2節 自由主義・ナショナリズムの進展

1

19世紀の転換点



- (1) ウィーン会議の後王権が復活したフランスでまたもや1830年に革命が起きた。これを何というか。
- (2) (1) いざ作られた王政で「フランス人の王」と称した国王。
- (3) 1848年フランスで選挙権の拡大と議会の改革を求めて、共和主義者と社会主義者が協力して起きた革命。
- (4) (3) に影響をうけ、ウィーンの民衆が蜂起し、メッテルニヒが亡命したドイツの革命。
- (5) (4) 以降ドイツで自由主義運動の高まりの中、作られた議会。
- (6) 一つの民族が一つの国家を作るということを理想とした考えを何というか。

2節 自由主義・ナショナリズムの進展

2

世界の工場 イギリス



- (1) 産業革命を経てイギリスは世界最大の工業国となり、何と呼ばれるようになったか。
- (2) この時のイギリスの女王で万国博覧会を開催した人物。
- (3) 世界が一つの市場という考え方。
- (4) 産業革命を迎えたヨーロッパ各国が、アジアやアフリカなどの諸地域を自国の商品の市場や原料・食糧の供給地にした体制を何というか。
- (5) イギリスでディズレイリーが指導した政党。
- (6) イギリスでグラッドストーンが指導した政党。
- (7) イギリスがこの時に確立した責任内閣制のもと、二大政党による政党政治を何というか。
- (8) 国際的分業の展開で、熱帯・亜熱帯地域では16世紀から砂糖やコーヒーなどの生産で確立された農業を何というか。
- (9) 本国や欧米への輸出品目がごく少数の農産品に偏った経済を何というか。

2節 自由主義・ナショナリズムの進展

3

フランス第二帝政とイタリア・ドイツの統一



- (1) ナポレオンの孫で、1852年に皇帝となった人物。
- (2) (1) が皇帝となったことで始まったフランスの政治体制。
- (3) 1870年から起こったプロイセンとフランスの戦争。
- (4) (3) の戦争に敗北し、パリの民衆が蜂起して、歴史上最初にできた労働者の政権。
- (5) (4) が2ヶ月間続いた後、1870年から1940年まで続いたフランスの政治体制。
- (6) イタリアのサルデーニャの首相で、イタリア統一を指揮した人物。
- (7) シチリア反乱をおさめ、ナポリ王国を征服し、その土地をサルデーニャ王に献上した青年イタリア出身の人物。
- (8) サルデーニャ王のヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世を国王とするイタリアの統一された国の名称。
- (9) 鉄血宰相と呼ばれた、プロイセンの首相。
- (10) 1871年、普仏戦争ののちに成立したヴィルヘルム1世を皇帝としたドイツの国の名称。
- (11) ドイツ統一の主導権を握れなかったオーストリアは、ハンガリーの自立を認めてこれと手を結び樹立した国家。
- (12) (9) が主導した、フランスを孤立するために行ったオーストリア・イタリアとの同盟

2節 自由主義・ナショナリズムの進展

4

ロシアの改革と東方問題



- (1) 1853年から始まった、ロシアとオスマン帝国の戦争。
- (2) ロシアが(1)の戦いで負けた後、様々な改革を推し進めた皇帝。
- (3) (2)が起こした改革の一つで、農奴の移住・結婚・転職の自由を与えた改革。
- (4) ヨーロッパ各国がオスマン帝国領への影響力の拡大や領土分割を図ろうとして生じた外交問題。
- (5) 19世紀後半、ロシアとオスマン帝国による戦争。
- (6) (5)で結ばれたサンステファノ条約にヨーロッパ各国が批判したことから開かれた、ビスマルクが主導した会議。

2節 自由主義・ナショナリズムの進展

5

南北戦争と戦後の発展



- (1) アメリカの移住者の人が住む開拓地と未開拓地の教会の名称。
- (2) アメリカ南部で綿花プランテーションの労働力だった人々。
- (3) アメリカ南部で指示された政党。
- (4) アメリカ北部で支持られた政党。
- (5) アメリカの南部と北部間で起きた戦争。
- (6) この時のアメリカの共和党の大統領。
- (7) 1863年、(6)がおこった宣言。
- (8) 南北戦争後に開通した国内の 一体性が深まった交通革命を担ったもの。
- (9) 南北戦争後、圧倒的な経済力を背景に1898年に起こった戦争。

2節 自由主義・ナショナリズムの進展

6

19世紀の文化と第2次産業革命



- (1) ラジウムの放射能を発見した人物。
- (2) ダイナマイトを発明した人物。
- (3) 進化論を唱えた人物。
- (4) 自由競争の時代から移行し、少数の巨大な企業が特定の分野の産業を独占する社会形態。
- (5) 人間の精神・感情の世界や個人・民族の個性を守ろうとした19世紀初めの思想・芸術の考え方。
- (6) 近代歴史学を確立した、歴史の父と称される人物。
- (7) ドイツ観念論を大成した人物。
- (8) 文学と絵画の世界で、本来の姿をありのままに表現しようとした考え。